



日本聖書神学校 学 報

Japan Biblical Theological Seminary

〒161-0033 東京都新宿区下落合 3-14-16・☎03-3951-1101 ~ 2・Email: jbts@jbts.ac.jp

2025 年 9 月 15 日

第 179 号

発行人 神 保 望

【後援会献金口座】

郵便振替:

00110-3-6435

加入者名:

学校法人聖經学園

日本聖書神学校



【巻頭言】

イエスの祈り

ヨハネによる福音書第一七章一～一九節

教 授 菅原裕治

今号の内容

巻頭言	1
新入生の声	2
沖縄共同研修に参加して	3
決算報告	3
学事報告・個人消息	4

聖公会の礼拝には、「代祷」という部分があります。聖餐式では必ず、世界の様々な諸課題の解決のために、国内外の管区・教区・教会・施設、そこに属する聖職のために、各教会の活動や関わる人たちのために、そして、すでに天におられる方々との交わりを覚えて、項目、名前を挙げて祈ります。この「代祷」の他、年間を通して、あるいは特定期間、管内、教区内で同じ祈りをささげる場合があります。

今年、日本聖公会東京教区では、祈りの小冊子「平和の祈り」が作成され、東京教区のすべての教会に送られました。8月は毎年、日本聖公会全体で「平和の祈り」を捧げていたのですが、今年小冊子が作られたのは、戦後80年にあたるからです。

小冊子にある祈りの項目には、「平和のために」はもちろんのこと、「戦後80年を覚えて」、「原爆によって逝去された人びとを覚えて」、「外国人被爆者を覚えて」、「核兵器廃絶と平和を覚えて」とわたしたちの地域と歴史に関連した祈りがあります。伝統的な「アッシジのフランシスの祈り」も掲載されています。この小冊子の用い方は、各教会・個人の自由ですが、同じ祈りを心合わせて祈ることが大切です。しかし、世界の教会へと視点を広げると、心合わせて祈ることができない現実もあると思います。自分が大切にしたい人のためにしか祈れない時もあるのです。教会やキリスト者の歩みは、祈りに始まり、祈りに終わるといわれます。祈ることが大切であることは、疑問の余地がありません。しかし、わたしたちは、人間である限り、その祈りにおいても、限界があります。その限界に気づくことが、祈りの大切さでもあります。ヨハネ福音書17章を読む時、わたしたちは祈りについて、大切な事柄を示されます。

17章は、小見出しに「イエスの祈り」とある通り、その全体がイエス様の祈りです。共観福音書は、イエス様が様々な場面で祈る姿を描きますが、ヨハネ福音書では、ここにイエス様の祈りが集中しています。その祈りは、ご自身のため(17:1-5)、弟子たちのため(17:6-19)、

後の教会のため(17:20-26)の三つに分かれます。また、祈りの内容は、「栄光」、「聖別」、「一つ」の三つがあります。

ヨハネ福音書という物語世界において、イエス様は、17章までに主なる神様の栄光を現わされていたのですが、受難を前にして、天地創造の前にイエス様が持っておられた栄光を、最後に現わす時が来たと祈ります。最後、すなわち十字架の死は、終わりではなく神様の栄光を現わす時なのです。イエス様は御名を現したことを語り、その告知に聞き従う人々、つまり弟子たちを聖別し、守って下さるように祈ります。聖別とは神様の目的のために、他とは別にされることです。イエス様は更に、自分を遣わされた父なる神様と子であるご自分が一つであるように、全教会が一つとなるように祈ります。それは一つとなった教会を見て、世の人々が神様の愛を知り、信じるようになるためです。この教会には、現代のわたしたちも含まれるのです。そして、このイエス様の祈りの課題を、わたしたちはまだ二千年の時を経ても達成していません。

イエス様の祈りにある三つの事柄の中で、ことに「栄光」について注目しますと、「栄光」にはヘブル語で「重しとする」という意味があります。イエス様はここで何を重しとするかを示してくださいと祈っているのです。わたしたちは何を重しとするのでしょうか。それは、神学、伝統、聖書、聖霊、正義、平和、人権、歴史理解、多様性、環境保護など人によって様々です。しかし、それが異なるがゆえに、人々は一つとなることを妨げられる場合があります。また、教会もなかなか一つにはなりません。だからこそ、イエス様はその御自身の祈る姿によって、大切なことを示すのです。それは、祈ることを通して、主なる神様との正しい関係が回復され、その信頼関係により、何を重しとするかという感覚は鋭くされるということです。ヨハネ福音書は、そのように時空を超えて、わたしたちのために祈って下さるイエス様を描いているのです。

イエス様によって今までも、今も、そしてこれからも祈られている存在として、心を合わせてそれぞれの歩むべき道を進みたいと思います。

新入生の声

主に招かれて、学びの道へ

今井由貴子（世田谷キリスト教会）

私は昨年十二月、祈りのうちに神学校を探し求める中、主の導きにより本学へと招かれました。初めて出席したクリスマス礼拝では、門をくぐった瞬間に心に平安が満ちあふれ、神学生の真摯な祈りの姿に深く感銘を受けたことを、今も鮮明に覚えています。

召命の確信は与えられていたものの、自信も知識も乏しく、不安のうちに歩んでおりました。しかし主は、そのような私を迎え入れ、今も変わらず導いてくださっています。

登校のたびに校舎の十字架を仰ぎ見ると、この場に招かれ、学べることへの感動と感謝が胸にあふれます。

知識にとどまらず霊性も養われ、信仰が確かに深められていることを実感する毎日です。神の器へと造り変えられてゆくこの恵みに感謝し、神の愛に応えつつ、祈りのうちに歩んでまいります。

三度目の正直なのでしょうか、神さま！？

丸山 仁（日本基督教団武蔵野教会）

神学基礎講座生で半年、聴講生で三年、ついに神さまに導かれて、正科生となりました！三十五年以上前の、最初の“献身への導き”から数えると、三度目？！神さまは、信仰に揺れに揺れた、こんな私を見放されず、本当に驚き、畏れるばかりです。また、教会の佐々木牧師、長老をはじめとする教会員の皆さまの、大きな助けがあつての、“献身”で、今回は非常に勇気づけられ、感謝しかありません。海外出張の多い仕事をしながらの神学生生活ですので、簡単ではない未来が予想されますが、「ここまで、神さまは私を待って下さったのだ！」と、「是非初心ヲ忘ルベカラズ、時々ノ初心ヲ忘ルベカラズ」と、日々「研鑽怠ラズ」勉強しております。日本聖書神学校での、学びと祈りの機会を与えて下さった、神さまの恵みに感謝して、神さまと教会に仕える者になれる様に、全てに於いて、神さまを讃美し、祈る心で対する事が出来ればと、一步一步進みたいと思っております。

神の「恵み」

吉岡 恵（日本基督教団祖師谷教会）

私は、南米ボリビアで生まれました。父が日本基督教団の牧師であり宣教師として派遣されたからです。伝染病により命の危険に晒されながらも5歳で日本へ帰国できたことは、神さまの「恵み」であります。17歳の時洗礼を受け、CS教師の経験から乳幼児教育へ興味を持ち、約20年間保育園園長として様々な経験をさせていただきました。職場でも聖書に立ち返る日々でした。思い悩む時祈りに答え、救いを与えてくださったのはまさしく神さまの「恵み」でした。「人とのかわり、共に成長すること」こそが自分にとっての一番のやりがいであり、生涯をかけて取り組みたい使命です。

今年で60歳の節目を迎え、両親と夫が天に召され、保育園も契約職員となり、私生活においても仕事においても、神さまから時間を与えられたように感じています。神さまは眠れない夜の闇の中、悲しみの祈りを聴かれ、喜びに変えてくださいました。今まで受けてきた様々な「恵み」と、今日日本聖書神学校で与えられている「恵み」に深く感謝し、励んでいきたいと思っております。



左から吉岡 恵、今井由貴子、丸山 仁神学生

日本聖書神学校を覚えて祈る集い テゼの歌による黙想と祈り

日時：2025年10月9日（木）午後6時～8時半

今年度も「日本聖書神学校を覚えて祈る集い — テゼの歌による黙想と祈り」の会を開催することが決定しました。昨年参加された多くの方々は、前回の、主への賛美と祈りが一つの呼吸のようになった豊かなひと時を思い出されることでしょう。今年も上垣勝先生（教団・隠退教師）に会のリードを、そして奏楽を鈴木敦子さん（捜真バプテスト教会オルガニスト）にお願いし、テゼを通して再び皆様と共に賛美の祈りを合わせたいと思います。そして本校にまだいらしたことの無い方々に、神学校のことをより知って頂きたいと願っています。形としては二回目の開催となりますが、この会の意義を新たに心に留めることができるようにと準備を進めています。特に、私たちを取り巻く世界は日々大きく変化しており、今日私たちが置かれている状況のなかで、共に祈りを合わせ、主の平和のために遣わされる思いを新たにされたいと思います。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

沖縄の「怒り」 沖縄共同研修に参加して

西 宏海（2 年）



沖縄における米軍基地の一極集中と更なる新基地増設の問題、それに伴う米軍兵士による性暴力などの凶悪犯罪、軍用ヘリの部品落下等、事件・事故は後を絶たない。そのような中、2 月にぎのわんセミナーハウスで開催された共同研修に参加した。これは、沖縄宣教研究所と富坂キリスト教センターが 2013 年から隔年で計 5 回行ってきたもので、その第 6 回研修に、私と教務部職員の木村晋治氏が神学校から派遣されたものである。主題は継続して「植民地主義と神の国の宣教」であり、今回の副題は「いのちの尊厳と共に」であった。宇佐美節子氏、大

嶋果織氏、上原榮正氏らの発題とそれを受けての対話が重ねられた。

生まれて初めて訪れた沖縄。そこで私が目にし、耳にしたのは、ヤマトで耳にする「無機質な」ニュースの情報のみでは知り得ぬ、生々しい沖縄の惨状である。普天間基地県外移設という民意を無視し、新基地を「押し付ける」。植民地支配という構造的暴力の皺寄せが、沖縄に於いて目に見える形で明るみになっているのだ。ヤマトの一人一人がその「加害者」である自覚を忘れてはならない。「知らないふりをする」欺瞞を捨て去るのは一体いつか。沖縄の人々は、ヤマトの内にも「闇」を見抜いている。沖縄の人々の悲痛の叫びは、この時も続いている。沖縄は今でも「戦後」が、否、「戦争」が続いているのだ。

共同研修を終えた後、ヤマトからの参加者は辺野古と安和・塩川に向かった。

辺野古の土砂埋立反対デモへの参加を通じて、強大な権力を前にして私たちの起こす抵抗は、実に小さく無力なものに過ぎないことを実感した次第である。それでもなお、私たちが沖縄の人々と真に病を分かち合うとき（詩編 35:13-14）、泣いて悲しみを共にするとき（ヨブ 30:25）、いつか必ず主が顧みて下さる（創世記 50:25）。だから、抵抗を止めてはならない。主が聖霊の導きを通じて私たちに執り成して下さり、いつの日か、ヤマトと沖縄の間に立つ隔ての壁を取り去ってくださる事を願ってやまない。



決算報告 2024 年度会計について

同窓生、諸教会の皆様には日本聖書神学校のためにお祈りいただき、それぞれ厳しい状況の中にも関わらず、学校運営に多くの献金を捧げてくださり、深く感謝いたします。

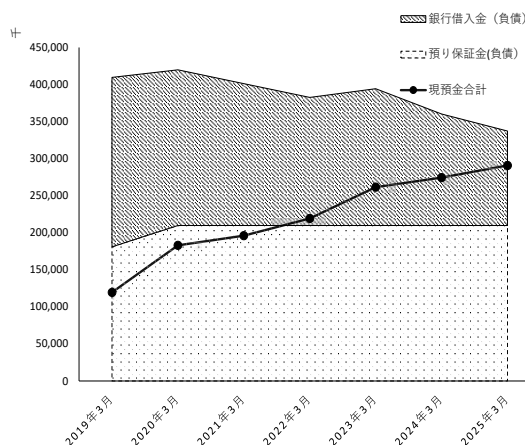
2024 年度の学校法人会計は、後援会から 1335 万円のご寄付を頂き、また収益事業会計から 7372 万円の繰入れもあり、校舎や学生寮の今後の修繕のため新たに修繕積立金を積み立てるとともに、学習環境整備基金の活用

によりカメラ・マイク等内蔵の学習用通信機器を導入することができました。

収益事業会計では、施設利用料収入が前年度比 385 万円増加し、預り保証金引当金の増額とともに収益事業においても修繕積立金を新設することができました。資産総額に対する負債総額の比率は前年に引き続き改善しており、負債比率については今後も改善の必要はありますが、順調に返済を行っております。

現在理事会では安定した学校運営のため、老朽化した学校施設やテナントビルの問題等様々な課題の検討を続けております。

昼は働き夜学ぶ、召命を受けた学生のために日本聖書神学校は学校設備や研究環境を充実させ、この地で存続していく必要があります。引き続き皆様のお祈りとお支えをお願いいたします。（松脇達朗 総務部長）



区分	部門	科目	2018年 実績	2019年 実績	2020年 実績	2021年 実績	2022年 実績	2023年 実績	2024年 実績
経常収入	学校	学校計	50,954,467	50,540,845	45,706,059	52,177,379	101,925,630	76,303,125	97,592,044
	収益	収益事業計	128,071,089	136,966,592	141,652,808	146,293,149	151,645,717	154,276,412	158,756,955
経常支出	学校	学校計	179,025,556	187,507,437	187,358,867	198,470,528	253,571,347	230,579,537	256,348,999
	収益	収益事業計	70,001,278	65,454,373	60,397,987	62,299,607	65,625,390	67,107,605	72,464,565
経常収支	学校	学校計	122,652,622	109,587,428	101,625,552	107,116,139	144,586,755	123,963,013	115,589,595
	収益	収益事業計	52,651,344	44,133,055	41,227,565	44,816,532	78,961,365	56,855,408	43,125,030
経常収支差引計	学校	学校計	56,372,934	77,920,009	85,733,315	91,354,389	108,984,592	106,616,524	140,759,404
	収益	収益事業計	174,138,445	148,506,386	82,279,827	167,737,069	53,081,717	23,339,005	5,086,258
財務収支	学校	学校計	190,824,674	247,972,469	153,266,454	251,932,994	159,748,460	165,167,575	153,894,803
	収益	収益事業計	-16,686,229	-99,466,083	-70,986,627	-84,195,925	-106,666,743	-141,828,570	-148,808,545
総合収支			39,686,705	-21,546,074	14,746,888	7,158,464	2,317,849	-35,212,046	-8,049,141
前年度繰越資金			72,870,621	112,557,326	91,011,252	105,757,940	112,916,404	115,234,253	80,022,207
当年度収支			39,686,705	-21,546,074	14,746,888	7,158,464	2,317,849	-35,212,046	-8,049,141
次年度繰越資金			112,557,326	91,011,252	105,757,940	112,916,404	115,234,253	80,022,207	71,973,066
学校債残高			84,380,000	69,380,000	60,380,000	46,390,000	45,250,000	3,750,000	3,750,000
銀行借入金残高			228,685,000	210,025,000	191,365,000	172,705,000	185,060,000	150,444,929	127,380,929
預り保証金			181,000,000	209,800,000	209,800,000	209,800,000	209,800,000	209,800,000	209,800,000
保証金引当金残高			0	58,800,000	63,800,000	78,805,868	108,805,868	150,007,820	155,008,798
奨学金預金残高			7,700,000	27,220,228	27,220,500	28,180,468	28,180,468	28,180,614	28,557,116
学習環境整備積立金							10,000,000	20,000,000	17,428,000
修繕積立金(学校)残高									5,000,000
修繕積立金(収益)残高									10,000,000

Diary 学事報告

2025年4月～8月

- ・4月4日 入学始業礼拝、説教「キリストに従う」神保望校長、新入生12名(正科生3名、聴講生9名)入学、参加者61名
- ・4月4日 教授会(第1回)
- ・4月7日 前期授業開始
- ・4月10日 学報(178号発行)
- ・4月18日 理事会(第303回)
- ・4月23日 理事会(第304回)・臨時評議員会(第230回)
- ・4月23日 学生自治会総会
- ・4月28日 沖縄共同研修報告会(全校共通総合演習)
- ・5月9日 創立記念日
- ・5月12日 教授会(第2回)
- ・5月18日 創立79周年記念の集い、開

- 会礼拝説教「あなたは、私のすべてを、ご存じです」森 容子牧師(水元教会・65期)、後援会報告・奨学金支給認定式、神学生との交わり、参加者49名
- ・5月19日 後援会役員会、献身志願者の集い準備会
- ・5月26日 図書館運用委員会
- ・6月2日 実習教会牧師との懇談会
- ・6月3日～5日 ペンテコステ立証祈禱会
- ・6月4日 理事会(第305回)
- ・6月9・16日 牧会的ケアワークショップ(全校共通総合演習)、講師：藤崎義宣牧師(久が原教会)
- ・6月16日 教授会(第3回)
- ・6月19日 評議員会(第231回)・理事会(第306回)
- ・6月30日 教団教師養成制度検討委員会との懇談会
- ・7月7日 理事会(第307回)

- ・7月14日 献身志願者の集い準備会、教団教師委員会との懇談会
- ・7月17・23日 前期補講日
- ・7月20～21日 第14回献身志願者の集い、開会礼拝(神保望校長)、献身の喜び(関義朗牧師(土気あすみが丘教会・70期)・内田弥生神学生)、御言葉・音楽・静思のとき、朝の礼拝(メッセージ：柳下明子教授)、後援会から(菊池公平会長・村上信男役員)など、参加者7名
- ・7月24・25日 前期試験日
- ・7月25日 教授会(第4回)、卒業論文中間発表会
- ・8月8日 献身志願者の集い反省会
- ・8月18～20日 卒業生研修会(テーマ「日本のキリスト教について」、講師：山口陽一氏(東京基督教大学特別教授)、同窓会総会

個人消息

■ 神保望 校長

- ・4月6日 南三鷹教会で礼拝説教・聖餐式司式
- ・4月16日 消防用設備定期点検に立会い
- ・4月22日 藤崎信牧師葬儀に出席(愛泉教会)
- ・4月24日 東京教区常置委員会に出席(複数回)
- ・5月11日 横須賀上町教会で礼拝説教・杉野信一郎牧師就任式に出席(祝辞)
- ・5月16日 同窓会拡大役員会に出席(献身志願者の集いアピール)
- ・5月23日～24日 日本神学教育連合会(JATE)総会・懇親会に出席(同志社大学リトリートセンター)
- ・5月27日 東京教区総会に出席
- ・6月8日 隠退教職ホーム「にじのいえ 信愛荘」ペンテコステ礼拝で説教・聖餐式司式
- ・6月8日 大塚平安教会の小河由美子牧師就任式に出席(祝辞)
- ・6月15日 東京シオン教会の花島泉伝道師就任式に出席(祝辞)
- ・6月22日 越生教会の金子敏明牧師就任式に出席(祝辞)
- ・6月23日～25日 新任教師オリエンテーションに出席(熱海)
- ・6月27日～29日 日本宣教会(JMS)で司会(西南学院大学)
- ・7月1日 東京教区伝道部婦人委員会主催全体集会で講演(三崎町教会)
- ・7月6日 茅ヶ崎堤伝道所の細井宏一牧師就任式に出席(祝辞)
- ・7月13日 勝田台教会伝道礼拝で説教
- ・7月13日 田園都筑教会の木村光寿牧師就任式に出席(祝辞)
- ・7月27日 厚木上教会の礼拝(中野通彦牧師就任式)に出席(祝辞)
- ・7月27日 下石神井教会の西間木公孝牧師就任式に出席(祝辞)
- ・8月24日 武蔵野教会礼拝で説教

- ・校長として理事会、評議員会、教授会、校務会、人事委員会、図書館運用委員会、後援会役員会、献身志願者の集い準備会に出席

- ・その他適宜人事相談・学生面談を担当して教務執行

■ 荒瀬牧彦 教授／教務部長代行

- ・6月9日 日本賛美歌学会運営委員会
- ・6月21日 (福) ナオミの会評議員会
- ・6月29日 カンパランド長老キリスト教会(CPC) 東小金井教会説教
- ・7月21日 『みんなのさんびか』発刊記念イベントでのトーク 於バプテスト相模中央キリスト教会
- ・CPC 田園教会牧師の執務。CPC 中会運営委員・神学社会委員長・礼拝書委員・アジア宣教委員、JBTS 教務部長代行・理事・評議員、賛美歌工房代表、御茶ノ水スタンディング呼びかけ人としての活動
- ・執筆：『礼拝と音楽』204号書評・205号「教会の近づきやすさを考える」、「あなたの歌はどこにあるのか」(『みんなのさんびか』①希望と平和)、「神の想像される世界で日本の賛美歌を想像する」(『日本賛美歌学会紀要』12号、共同執筆)

■ 小林祥人 教授

- ・5月20・21日 関東教区総会に出席
- ・5月25日 近隣教会にて説教奉仕
- ・同窓会常任役員としての執務執行
- ・取手伝道所と認定こども園取手幼稚園での執務

■ 菅原裕治 教授

- ・5月17日 東京教区執事按手式出席(推薦者)
- ・6月18日 東京教区6月教役者逝去者記念聖餐式説教担当
- ・日本聖公会管区共通聖職試験委員会委員長を継続(2025年度秋期試験を監修)
- ・日本聖公会東京教区聖職試験委員会委員長を継続(2025年度執事試験を監修)
- ・東京聖三一教会牧師としての執務執行
- ・日本聖書神学校図書館長、評議員とし

ての執務

■ 細井茂徳 教授

- ・4月9日 上星川幼稚園入園式に出席、祝禱
- ・4月14日 青山学院大学チャペル礼拝説教(渋谷キャンパス)
- ・7月23日 青山学院大学キリスト教理解関連科目担当者懇談会に出席
- ・上星川教会牧師としての執務執行
- ・全国教師会理事としての執務執行
- ・青山学院大学非常勤講師「キリスト教概論II」を継続

■ 水谷勤 教授

- ・4月27日、5月25日、6月29日 取手伝道所にて礼拝説教
- ・5月20日 同窓会神奈川支部会講師
- ・6月22日 長浦教会にて礼拝説教
- ・7月13日 小石川白山教会にて礼拝説教
- ・7月27日、8月24日 信濃町教会にて礼拝説教
- ・8月24日 池袋西教会にて夕礼拝説教
- ・8月31日 東金教会にて礼拝説教
- ・日本聖書神学校キリスト教研究所長としての執務

■ 柳下明子 教授

- ・4月8日、6月10日 東京教区東支区常任委員会出席
- ・4月16日、6月4日 東京女子大学チャペル担当
- ・5月20日 東京教区東支区准允式出席
- ・5月27日 東京教区総会出席
- ・6月15日 信濃町教会大谷昌恵牧師担任教師就任式(祝辞)
- ・6月19日 東支区伝道部委員会
- ・8月25日～27日 日本基督教団教師継続教育研修会講師(於関西セミナーハウス)
- ・東京女子大学キリスト教入門Ⅰ担当
- ・農村伝道神学校近現代教会史Ⅰ担当
- ・聖公会神学院キリスト教史入門Ⅰ担当
- ・そのほか番町教会主任担任教師としての執務、日本聖書神学校寮監、評議員としての執務